

社会福祉法人 船橋市社会福祉協議会 船橋市ボランティアセンター

総合的な学習で福祉を
取り入れたい・学びたい
先生と児童・生徒さんに！

福祉 体験学習 メニュー票



興味のあるプログラムがありましたら、まずは
船橋市ボランティアセンターにご連絡ください。



お問合せ先 〒273-0005 船橋市本町2-7-8 3F
TEL : 047-431-8808 FAX : 047-431-2678
Mail: funabashi-volunteercenter@jcom.zaq.ne.jp

船橋市社会福祉協議会について

地域の多様なニーズに応えるため、支部である地区社会福祉協議会とともに行政や関係機関・団体等の協力を得ながら「誰もが自分らしく安心して暮らせる福祉のまちづくり（地域づくり）」を目指して、さまざまな事業活動を行っています。

船橋市ボランティアセンターについて

ボランティア活動を希望する方の相談・登録をし、ボランティア活動を必要とする人や福祉施設との調整を行う他、下記の事業も行っています。

- 講座、研修会の開催
- 福祉教育の推進
- 福祉用具等の貸出
- おもちゃの図書館の運営充実
- 災害時におけるボランティア活動の推進
- 企業等の社会貢献支援
- 古切手回収事業
- 不要入れ歯リサイクル事業

こんなこともしています

● 福祉読本配布事業

子ども達が自分のまわりの出来事にも心を配ることの大切さを学ぶことを目的に作成しています。本冊子は日々の生活を通じて、高齢者や障がい者等の困りごとを身近に感じ自ら考えることで、思いやりの心を育むことができるように、物語風の構成でわかりやすい内容となっています。毎年、市内小学校4年生に配布しております。



● 船橋市中学生ボランティア養成講座（8月頃）

中学生の福祉教育推進を図ることを目的として船橋市ボランティア養成講座を開催しています。災害時のボランティア活動の話や、非常食体験、手話講座など楽しく学べる内容となっており、好評を得ています。



手話体験の様子

福祉体験学習について

船橋市内の小学校等で福祉体験学習を申請できます。

福祉教育推進事業の一環として、小学校等の「総合的な学習の時間」をはじめとする福祉体験学習の相談があった際に、企画・運営に関する相談助言や、障がい者当事者団体と連絡調整を行い講師として派遣しております。障がい当事者が講師となることで、児童・生徒の皆さんの障がいやボランティアに対する理解が一層深まり、効果的な福祉体験学習につながると考えています。

福祉体験学習メニューについて

次ページから紹介する体験プログラムは、過去の取り組みをもとに作成した例ですので、ご参考にしてください。また、先生方に「こんなことをしてみたい！」といったご意向があれば、その希望に沿って体験プログラムを企画することもできますので、お気軽にご相談ください。

高齢者疑似体験って
どんなことをするのかな？

白杖？
しろつえ？

はくじょう
ダヨ

車椅子体験
生徒にさせたいな



相談から実施までの流れ（例）

船橋市ボランティアセンターへお電話ください。☎ [047-431-8808](tel:047-431-8808)
少なくとも1カ月前にはご連絡いただき、日程に余裕をもって相談してください。



授業計画・企画の検討（校内）



ボランティアセンターに相談

- ◆希望する学習内容、日にち、時間帯、対象学年、人数をお知らせください。
- ◆対応できる内容か判断したのち日程調整を図ります。



ボランティアセンターと担当先生で打合せ

- ◆先生・学校の提案する指導案やプログラムと、ボランティアセンターが提案する福祉教育プログラムをもとに学習内容を具体化します。



福祉体験学習当日

- ◆打ち合わせた計画をもとにボランティアセンター職員、先生、地域ボランティアで協力して福祉体験学習を進めます。



福祉体験学習終了後

- ◆児童・生徒の皆さんから感想を書いた手紙などを頂けますと今後の活動への参考になります。

必ずしもしっかりとした企画でなくても大丈夫です。こんなことがしたいというイメージと規模をだまかに決めておいてください。



社協から貸し出すもの、学校で用意していただくものなどお互いに十分確認し、福祉体験学習当日に備えます。



車椅子 体験学習



～学習のねらい～

車椅子の操作方法を学んだり、体験を通し、車椅子に乗っている方を取り巻く環境について理解を深め、自分たちに何ができるか考えましょう。

～気をつけていただきたいこと！～

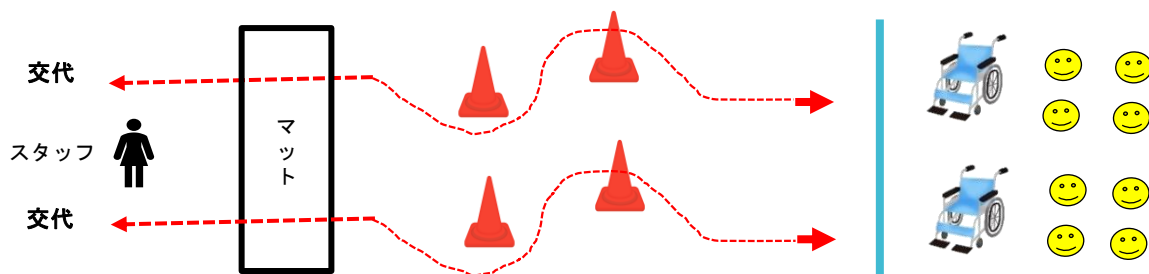
車椅子の利用者にとって、車椅子は普段の生活に欠かせないものです。それを「おもちゃ」のように扱わないようにお願いします。

市社協が用意するもの	学校で準備していただくもの
車椅子	マット、コーン等の障害物

体験プログラム（例）	時間
【学校到着】・コースの設置・点検 ・打合せ	30分
【児童・生徒 体育館集合】 ・車椅子の操作方法説明 車椅子を前に置き、スタッフが車いすの操作方を説明する	15分
【車椅子の体験】 ・2人1組で行動する。乗り手と介助者で役割分担し、あらかじめ設定したコースを周る ・乗り手と介助者は1周したら交替。時間が許す限り体験してもらう	応相談
【質疑応答】 ・事前学習や今日の体験学習で、児童・生徒が疑問に感じたこと、聞いてみたいことなどを講師の方々へ自由に質問してもらう	応相談

体験例 イメージ図

スタート&ゴール



～児童・生徒さんの感想～

- ・車椅子を押す人の大変さや、乗る人の気持ちがわかりました。
- ・車椅子の人を見つけたら、勇気をだして助けてみたいと思いました。



高齢者疑似体験学習（筋力低下）



～学習のねらい～

身体機能の低下を疑似的に体験し、誰もが年をとり、老化していくことは自然な姿であることを理解し高齢者に対する思いやりの心を育てます。

～気をつけていただきたいこと！～

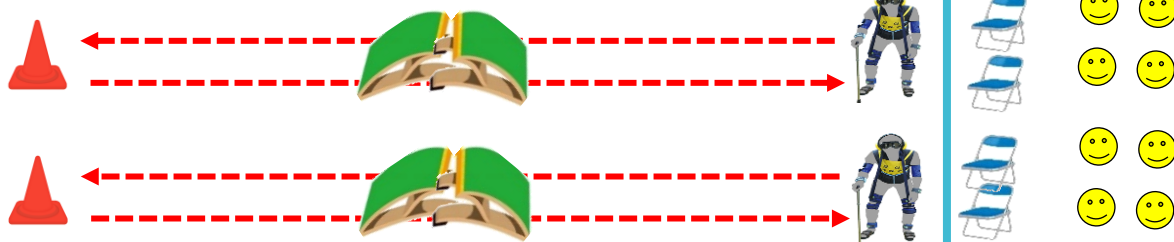
他の学校でも使用するものなので大切に扱っていただくようお願いします。また、着脱が困難であるため、無理に外そうとしないようお願いします。

市社協が用意するもの	学校で準備していただくもの
高齢者疑似体験セット (大人用) もしくは (子供用)	椅子、コーン、ロイター板等の障害物

体験プログラム（例）	時間
【学校到着】・コースの設置・点検 ・打合せ	30分
【児童・生徒 体育館集合】 ・高齢者疑似体験の装具の装着や、コースの説明をする	15分
【高齢者疑似体験】 ・スタッフと一緒に体験装具の装着。 ・2人1組でペアを組み1人は介護者として危険がないように見守る ・体験装具をつけたまま段差のある道を歩いてもらったり、床に落ちたものを拾ってもらう	応相談
【質疑応答】 ・事前学習や今日の体験学習で、児童・生徒が疑問に感じたこと、聞いてみたいことなどを講師の方々へ自由に質問してもらう	応相談

体験例 イメージ図

スタート&ゴール



～児童・生徒さんの感想～

- ・お年寄りの体験をして、目もあまり見えないし、身体も重かったからお年寄りの人がいたら助けてあげたい。
- ・高齢者の知らないところが知れたし、とても大変な一日を過ごしているのがわかりました。



高齢者疑似体験学習（白内障）



～学習のねらい～

白内障や視野狭窄などを疑似的に体験し、誰もが年をとり、老化していくことは自然な姿であることを理解し高齢者に対する思いやりの心を育てます。

～気をつけていただきたいこと！～

他の学校でも使用するものなので大切に扱っていただくようお願いします。

市社協が用意するもの

ゴーグル、軍手、おもちゃのお金等

学校で準備していただくもの

机、椅子

体験プログラム（例）

時間

【学校到着】・コースの設置・点検 ・打合せ

30分

【児童・生徒 体育館集合】

・ゴーグルと軍手をつけて体験することを説明する

15分

【高齢者疑似体験】

- ・2人1組でペアを組み、1人は補助者として困っていたら助けてあげる
- ・レシート等の細かい字を読んだりお財布からお金を出してもらう

応相談

【質疑応答】

- ・事前学習や今日の体験学習で、児童・生徒が疑問に感じたこと、聞いてみたいことなどを講師の方々へ自由に質問してもらう

応相談

体験例 イメージ図



～児童・生徒さんの感想～

- ・こんなに見えないのかと、驚いた。
- ・普段よく見えていることがこんなに便利な事なんだと思った。
- ・指先の使いにくさでお金を拾うのもおさいふを開けるのも、とても大変に感じた。スーパーなどで困っている高齢者のことを助けたいと思った。



白杖（視覚障がい） 体験学習



～学習のねらい～

障がいを持ちながら生活している人々について知り、視覚に障がいを持つ人と一緒に生活していくうえでその方々に対して自分にできるサポートを考えましょう。

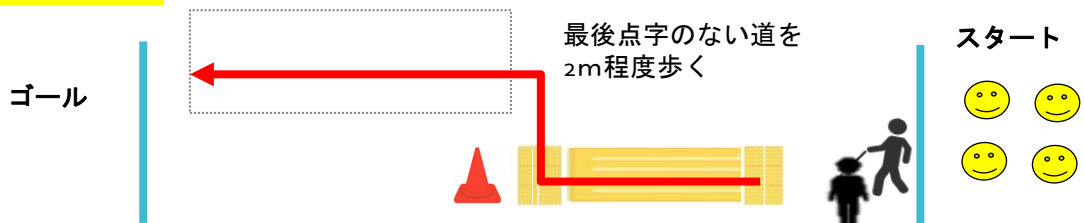
～気をつけていただきたいこと！～

当日はアイマスクをつけて歩行する体験学習をします。ふざけたりすると非常に危険です。また、白杖などの道具も大切に扱っていただくようお願いします。

市社協が用意するもの	学校で準備していただくもの
白杖、アイマスク、点字ブロックシート	コーン等の障害物

体験プログラム（例）	時間
【学校到着】・コースの設置・点検 ・打合せ	30分
【児童・生徒 体育館集合】 ・装具の装着や、コースの説明する	15分
【高齢者疑似体験】 ・スタッフと一緒にアイマスクの装着をし白杖を持つ ・2人1組でペアを組み、1人はガイド役になる ・アイマスクをつけて段差のある道や曲がった道を歩いてもらう	応相談
【質疑応答】 ・事前学習や今日の体験学習で、児童・生徒が疑問に感じたこと、聞いてみたいことなどを講師の方々へ自由に質問してもらう	応相談

体験例 イメージ図



～児童・生徒さんの感想～

- ・目かくしをしながら杖を使って歩いたのが怖かったです。
- ・これからは、白杖を使ってる人に肩などをかして危なくならないように助けたいです。

